

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520012

研究課題名(和文)キリスト教的人文主義教育思想の歴史とその現代的意義に関する研究

研究課題名(英文)Study on the history and actual implication of Christian Humanistic Education

研究代表者

桑原 直巳 (KUWABARA, Naoki)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：20178156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：近世初頭のイエズス会の活動を中心に、キリスト教的人文主義教育の展開に関する思想史、具体的には古代から中世にかけての自由学芸の発展、自由学芸と教父との関係、トマス・アキナスの学問論、『靈操』の前史としての神秘主義、ベギン、devotio moderna等の霊性運動に関する研究を行い、論文・編著書等にまとめた。

イエズス会を中心とする修道会によるキリスト教的人文主義教育の実際の展開に関する研究として、フランス・スペイン・フィリピン・東ティモール・コンゴ民主共和国・アメリカ合衆国および日本国内におけるイエズス会学校を中心とする主として中等教育の学校を訪問し、調査見学した。

研究成果の概要(英文)：I wrote articles on the study about the history of the humanistic trends of educational thoughts, i.e. on the development of the liberal arts and their relation to the Church fathers, epistemology of Thomas Aquinas, "devotio moderna" and Beguines as the pre-history of the "Spiritual Exercises" of Ignatius Loyola, the founder of the Society of Jesus.

As the study about the actual activity of the humanistic Christian Education, I visited Catholic schools in various countries in the world, i.e. in Spain, France, Philippines, East-Timor, and the Democratic Republic of Congo, United States of America, and in Japan, and investigated the activities of these schools.

研究分野：倫理学・倫理思想史

キーワード：倫理思想史 教育史 人文主義 自由学芸 イエズス会 哲学・倫理教育 修道会 キリスト教

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は平成 15-17 年度の間、研究課題「非主我的愛の成立基盤としての修道院靈性に関する研究」(基盤研究(C)(2)、課題番号 15520004)、平成 18-20 年度の間には研究課題「近代修道制とカトリック的倫理教育に関する研究」(基盤研究(C)、課題番号 18520003)のもとに科学研究費補助金の交付を受け、研究を進めてきた。

西欧の教育史において、初等・中等学校の歴史は大学よりもむしろ新しく、その成立は近代においてのことである。従来日本では余り知られていない事実であるが、その際に修道会、特にイエズス会を初めとする近代以降に成立した活動型修道会の役割は決定的であった。先の研究の結果、近代的学校教育の成立期において、これら修道会が設立した学校の教育理念としてキリスト教的人文主義の思想が大きな役割を演じてきた事情が明らかになった。

他方研究代表者は、上記の課題をはじめとする研究活動に加え、長年にわたり哲学・倫理学のアカデミズムが初等・中等教育の現場に貢献することの重要性を訴え続けてきた。そうした活動から明らかになってきたのは、一般にアカデミックな哲学者・倫理学者たちが初等・中等教育に向けて行う提言はたとえば「批判的思考力の育成」という標語に示されるような主知主義的傾向が強いことである。こうした哲学教育の現代的課題に照らしても、人文主義教育についての思想史的研究は重要な意味をもつことが明らかになりつつあった。

2. 研究の目的

本研究はカトリック修道会の創設になる草創期における初等・中等学校におけるキリスト教的人文主義教育の意義を明らかにすることを目的とする。具体的には

(1) 「キリスト教」と「人文主義教育」両者の緊張関係および総合の様態をキリスト教的人文主義教育の思想史的展望の中から解明し、

(2) 両者の一つの総合モデルとしてイエズス会を中心とする近代の修道会による学校教育の展開および現状について調査し、

(3) 「キリスト教的人文主義教育」が現代の哲学・倫理教育に対していかなる示唆を与えうるかを明らかにすることにある。

3. 研究の方法

(1) キリスト教的人文主義教育に関する思想史的研究においては、主として文献的研究にもとづいて検討を進めることとする。

(2) イエズス会を中心とする修道会によるキリスト教的人文主義教育の実際上の展開に関しては、歴史的研究に加え、学校現場における生きた教育実践内容についての調査研究も行う。

(3) 「キリスト教的人文主義教育」が現代の哲学・倫理教育に与える示唆については、上述(1)(2)の成果を現代日本における哲学・倫理教育に還元する活動そのものの中から解明する。

4. 研究成果

まず、研究目的(1)に即して、キリスト教およびキリスト教的人文主義、人文主義教育についての文献研究を中心とする研究を推進した。具体的には古代から中世にかけてのキリスト教世界における自由学芸の発展、自由学芸と教父との関係、トマス・アクィナスの学問論が展開されている基本テストである『ボエティウス『三位一体論』註解』の検討を中心とするトマス研究、イエズス会靈性の基礎を示すイグナティウス・デ・ロヨラの『靈操』の成立に際して、その前史として意味をもつ神秘主義、「新しい敬虔 devotio moderna」、ベギン、カルトゥジヤ会といった中世末期における靈性運動の意義、日本におけるキリシタン時代におけるコレジオ等に関する研究論文を多数発表した。

また、担当が決定した放送大学の授業に関連してキリスト教全般についての論考、図書(放送大学印刷教材を含む)を数編刊行した。

次いで、研究目的(2)に即してのイエズス会を中心とする修道会によるキリスト教的人文主義教育の実際的展開に関する研究としては、まず 23 年 8 月にフランス、スペイン、イタリアに見学旅行に赴き、特にスペインにおいてイエズス会の創立者イグナティウス・ロヨラおよびフランシスコ・ザビエル関連史跡、カルメル会関連史跡、およびイエズス会の影響下にある聖心侍女修道会創立者ラファエラ・マリア関連史跡を見学し、また聖心侍女修道会が運営する学校数校を訪問・見学して、その伝統および現代直面する課題などについて修道会の現地教員にインタビューを行った。また同年 9 月には日本における代表的なイエズス会学校である栄光学園を訪問した。特に同校の倫理科教員団と面談し、同校の教育の現状および直面する問題などについてインタビューを行った。いずれも、修道会のメンバーが減少する中でキリスト教的人文主義教育の理念を現代に活かすための努力と課題とについて多くの知見を得ることができた。

他方、いわゆる発展途上国におけるカトリック系教育機関についても訪問を重ね、知見を蓄積することができた。具体的には、24 年 8 月にはフィリピンにおけるカトリック学校(イエズス会によるアテネオ・デ・マニラ大学ハイスクール、メリノール会によるマリアム・カレッジ・ハイスクール、Augustinian Recollect Sisters の Our Lady of the Sacred Heart School) 27 年 9 月には東ティモールの聖イグナチオ学院、28 年 3 月にはコンゴ民主共和国のコンゴ・カトリック大学、イエズ

ス会の哲学課程神学院聖カニシウス哲学部、イエズス会の高等学校コレージュ・ボボトを訪問した。特にフィリピン、東ティモールについては報告論文を発表した。

さらに、研究目的(3)に即しての「キリスト教的人文主義教育」が現代の哲学・倫理教育に与える示唆についての成果は以下の通りである。まず 26 年には、日本学術会議哲学委員会「哲学・倫理・宗教教育分科会」の特任連携会員として、高等学校公民科「倫理」の振興を訴える「提言」の作成に参加した。また、26 年 10 月の日本倫理学会においては「可能性としての中世」を統一テーマとする共通課題を企画すると共に、「中世を支える制度的現実」と題して教育社会史的内容の提題も行った。さらには東京都公民科「倫理」「現代社会」研究会において、「高校公民科「倫理」活性化への道～学術会議からの提言を巡って」と題して講演を行った。さらに、27 年 10 月の日本倫理学会共通課題においては、学術会議の提言を踏まえ、倫理学教育に特化した企画を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 23 件)

桑原直巳、『霊操』成立前史に関する一考察 ルドルフ・フォン・ザクセンの『イエス・キリストの生涯』を中心に、日本カトリック神学会編『カトリック神学会誌』第 27 号、査読有、2016、pp.173-196

桑原直巳、ペドロ・ゴメスによる『靈魂論』の位置 - anima 論の展開とキリシタン時代における日本布教の文脈の中で -、筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 32 号、査読無、2016、pp.1-14

桑原直巳、東ティモールにおけるカトリック人文主義教育の挑戦 聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院 Colegio de Santo Inacio de Loyola を中心に、筑波大学哲学・思想専攻『哲学・思想論集』第 41 号、査読無、2016、pp.1-18

桑原直巳、托鉢修道会、ベギン、「新しい敬虔 devotio moderna」 社会進出型奉獻生活への道、『日本カトリック神学院紀要』第 6 号、査読無、2015、pp.63-84

桑原直巳、中世の知的世界を支える社会的現実、日本倫理学会共通課題報告、日本倫理学会編『倫理学年報』第 64 集、査読無、2015、pp.8-18

桑原直巳、Jesuits' Encounter with Japanese Buddhism in 16th Century - In the Case of "NIHON NO KATEKIZUMO (The Catechism in Japan)" -、筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 31 号、査読無、2015、pp.1-14

桑原直巳、苦難の僕と『詩編』22 編、筑波大学哲学・思想専攻『哲学・思想論集』第

40 号、査読無、2015、pp.1-17

桑原直巳、存在の一義性とスコトゥスの形而上学革命、筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 30 号、査読無、2014、pp.1-17

桑原直巳、トマス・アキナスにおける信仰、日本カトリック神学会編『カトリック神学会誌』第 25 号、査読有、2014、pp.27-47

桑原直巳、アンセルムスと二つの神学世界、筑波大学哲学・思想専攻『哲学・思想論集』第 39 号、査読無、2014、pp.1-17

桑原直巳、フィリピンのカトリック・ハイスクールにおける宗教教育、日本カトリック神学院紀要』第 4 号、査読無、2013、pp.125-144

桑原直巳、トマス・アキナスの学問論における哲学的神学と啓示神学、清泉女子大学人文科学研究所紀要第 34 号、査読有、2013、pp.259-277

桑原直巳、G・フローテとその後継者たち devotio moderna の靈性史、筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 29 号、査読無、2013、pp.1-13

桑原直巳、エックハルトの「神秘主義」と説教・靈的指導の言語、筑波大学哲学・思想専攻『哲学・思想論集』第 38 号、査読無、2013、pp.33-47

桑原直巳、靈性史の背景としてのベギン、清泉女子大学キリスト教文化研究所年報第 21 巻、査読無、2013、pp.37-58

桑原直巳、バシレイオスと異教的教養『若者たちへ』を中心に、東方キリスト教会編『エイコーン』第 38 号、査読有、2013、pp.119-135

桑原直巳、キリスト論における「上からのパラダイム」と「下からのパラダイム」 トマス・アキナスと現代、日本カトリック神学会編『カトリック神学会誌』第 23 号、査読有、2013、pp.17-38

桑原直巳、トマス・アキナス『神学大全』における「美」、日本カトリック神学院紀要』第 3 号、査読無、2013、pp.99-134

桑原直巳、トマス・アキナス『ボエティウス「三位一体論」註解』における学問区分、清泉女子大学人文科学研究所紀要第 33 号、査読無、2012、pp.147-165

桑原直巳、トマス・アキナス『ボエティウス「三位一体論」註解』における学問方法論、筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 28 号、査読無、2012、pp.1-16

②① 桑原直巳、トマス・アキナス『ボエティウス「三位一体論」註解』の意義、筑波大学哲学・思想専攻『哲学・思想論集』第 37 号、査読無、2012、pp.1-16

②② 桑原直巳、「三位一体」における「信仰」と「複数性」の問題 トマス・アキナス『ボエティウス「三位一体論」註解』に寄せて、清泉女子大学キリスト教文化研究所年報第 20 巻、査読無、2012、pp.1-22

②③ 桑原直巳、カトルトーマタとしての connexio virtutum per prudentiam トマス・アキナスにおける徳の結合理論の二重

性、中世哲学会編『中世思想研究』第53巻、査読有、2011、pp.161-171

〔学会発表〕(計12件)

桑原直巳、アリストテレス・トマス・ゴメス - anima 論の系譜 - (哲学会第54回研究発表会、東京大学本郷キャンパス、東京都文京区、2015(平成27)年10月31日)

桑原直巳、『靈操』成立前史に関する一考察 - ルドルフ・フォン・ザクセンの『イエス・キリストの生涯』を中心に (カトリック神学会第27回全国大会、日本カトリック神学院東京キャンパス、東京都練馬区、2015(平成27)年9月7日)

桑原直巳、書評会：H.G.ベック『ビザンツ世界論 - ビザンツの千年』戸田聡訳、コメント(東方キリスト教学会書評会提題、東京大学駒場キャンパス、東京都目黒区、2015(平成27)年8月24日)

桑原直巳、聖書的伝統における苦難の意味(上智大学中世思想研究所主催講演会「中世における悪の諸相」、上智大学、東京都千代田区、2014(平成26)年11月16日)

桑原直巳、「高校公民科「倫理」活性化への道 - 学術会議からの提言を巡って」(東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会平成26年度第2回研究例会、東京都立山崎高等学校、東京都町田市、2014(平成26)年10月9日)

桑原直巳、中世の知的世界を支える社会的現実(日本倫理学会第65回大会共通課題、一橋大学、東京都国立市、2014(平成26)年10月5日)

桑原直巳、「愛」と「主意主義」 - 後期スコラ学とフランシスコ会霊性 (カトリック神学会第26回全国大会、藤女子大学、北海道札幌市北区、2014(平成26)年9月8日)

桑原直巳、東方修道制の風景(上智大学共生学研究会、教父研究会、東方キリスト教学会共催シンポジウム「『フィロカリヤ』の風光」、上智大学、東京都千代田区、2014(平成26)年6月28日)

桑原直巳、フィリピンのカトリック・ハイスクールにおける宗教教育(カトリック教育学会第37回全国大会、星美学園短期大学、東京都北区、2013(平成25)年8月31日)

桑原直巳、トマス・アクィナスの経験主義的認識論と scientia としての神学(カトリック神学会第24回全国大会、南山大学、愛知県名古屋市昭和区、2012(平成24)年9月10日)

桑原直巳、バシレイオスと異教的教養『若者たちへ』を中心に (東方キリスト教学会、ホテルハイジ、長野県茅野市、2012(平成24)年8月30日)

桑原直巳、キリスト論における「上からのパラダイム」と「下からのパラダイム」 - トマス・アクィナスの場合 (カトリック神学会第23回全国大会、日本カトリック神学院

東京キャンパス、東京都練馬区、2011(平成23)年9月12日)

〔図書〕(計5件)

桑原直巳、荻野弘之『西洋哲学の起源』、放送大学教育振興会、2016、260(共著：桑原担当第9章～第15章、143-249)

上智大学中世思想研究所編、桑原直巳他著、『中世における信仰と知』、知泉書館、2013、463(分担著：桑原担当「クレルヴォーのベルナルドゥスにおける愛の霊性」、215-238)

秋元ひろと編、桑原直巳他著、『因果の探究』三重大学出版会、2013、176(分担著：桑原担当「自由の因果性と不滅の知性的靈魂 - キリシタン時代におけるイエズス会宣教師と日本仏教との出逢い」、107-119)

竹下政孝、山内志朗編、桑原直巳他著、『イスラーム哲学とキリスト教中世 - 実践哲学』、岩波書店、2012、352(分担著：桑原担当第2章「トマス・アクィナスの倫理学」47-70)

加藤信朗監修、鶴岡賀雄、桑原直巳、田畑邦治編、桑原直巳他著、『キリスト教と日本の深層』、オリエンズ宗教研究所、2012、308(共編著：桑原執筆第4章「A・ヴァリニャーノの適応主義と『日本のカテキズモ』」97-114)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑原 直巳 (KUWABARA, Naoki)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：20178156